

愛翔・あいちビジネスプロジェクト ～ビジネスの視点で地域課題の解決を目指すカリキュラム開発～

プロジェクトの目的

地域ビジネスを展開できる人材の育成

※地域ビジネスとは

まちづくり、商店街の活性化、観光、起業家育成、女性の活躍の場の提供など「地域に貢献」する事業



●地域協働推進校 ◆地域協働推進連携校（13校）

コンソーシアムの構築

地域ビジネスに関する実践的・体験的な学びの実現

国・地方公共団体

- ・愛知県、名古屋市
- ・国の行政機関

愛知商業高等学校

地域協働推進連携校

地域企業協働バンク設立

産業界

- ・商工会議所
- ・地域企業（各業種）



教育機関等

- ・大学、専門学校
- ・公益財団法人

開発プログラム

- ①地域ビジネス理解促進プログラム
- ②ビジネス教育力強化プログラム
- ③愛知版ビジネス連携プログラム

コンソーシアム

●国・地方公共団体

- ・愛知県教育委員会
- ・名古屋市東区役所
- ・東海財務局
- ・愛知労働局

●教育機関等

- ・名古屋商科大学
- ・名古屋学院大学
- ・大原簿記情報医療専門学校
- ・愛知県教育・スポーツ振興財団

●産業界

- ・名古屋商工会議所
- ・イオンモール株式会社
- ・イオンコンパス株式会社
- ・伊藤忠食品株式会社
- ・大塚食品株式会社
- ・株式会社中日ドラゴンズ
- ・森永製菓株式会社
- ・株式会社日本ドリコム
- ・永井海苔株式会社
- ・株式会社丸越（順不同）

1年生

【地域の課題を発見する】

- 課題発見能力
- コミュニケーション能力

地域企業講演



2年生

【地域の課題を解決する】

- 課題解決能力
- 創造力

実際のビジネスの学習
インターンシップ



3年生

【地域ビジネスを展開する】

- 企画力
- 協働的に取り組む態度

ビジネスの実践
商品開発・販売実習・広告作成



【何ができるようになるか】

地域の課題をビジネスの視点で捉え、経営資源を最適に組み合わせ、他者と協働してビジネスを展開できる

【何を学ぶか】

地域経済で行われている実際のビジネスを学ぶ

【どのように学ぶか】

地域で取り組まれているビジネスの実践例を活用したアクティブ・ラーニング

ふりがな	あいちけんきょういくいんかい	ふりがな	あいちけんりつあいちしょうぎょうこうとうがっこう
管理機関名	愛知県教育委員会	学校名	愛知県立愛知商業高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施希望調査

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：愛知県教育委員会

代表者名：教育長 長谷川 洋

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：愛知県立愛知商業高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：白井 上二

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
			○					
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉

※学科には、総合学科における総合選択科目群を含む。

2 取組内容

地域（愛知県全域）の課題をビジネスの視点で捉え、経営資源を最適に組み合わせ、他者と協働して地域ビジネスを展開できる人材を育成する。

この目的を達成するため、(1) 地域ビジネス理解促進プログラム、(2) ビジネス教育力強化プログラム、(3) 愛知版ビジネス連携プログラムといった3つのプログラムについて研究開発を行う。

(1) 地域ビジネス理解促進プログラム（生徒対象）

ユネスコスクールとしてのESD活動を商業教育と融合させた教育実践を通して、将来が不透明な社会において、自ら進むべき道を見定める確かな判断力を身に付けさせる。少子化、高齢化、環境問題、生物多様性、金融・年金・医療、エネルギー問題等、すぐには答えの見つからない事象について、その中から最適解を見つけ出す実践を通して、地域課題を発見し、ビジネスの視点で解決していく力を育成する。

- 1年生は、課題発見能力とコミュニケーション能力を身に付けさせる。

地域産業界（流通業、金融業、IT企業、会計事務所、観光関係企業等）に協力を依頼し、企業が抱える課題についての講演を開催し、ビジネスプランの研究・発表等のグループワークを実施する。

- 2年生は、課題解決能力と創造力を身に付けさせる。

地域産業界の協力を得て、企業が実際に行っている商品開発や経理、広告、販売促進の手法について学習する機会を設定し、発見した課題の解決方法を科学的な根拠に基づいて探究させる。また、インターンシップ等の就業体験活動、地域でのフィールドワークや海外販売実習を実施し、実際の企業活動を体感することで、勤労観・職業観をより高めさせ、深い学びを実現する。

- 3年生は、チームで取り組む態度と企画力を身に付けさせる。

地域産業界のメーカーや小売店と協働し、これまで学んできた手法を実践する。東海地区や全国で流通する新商品開発に取り組むことで、企画から流通、プロモーション活動まで一連のマーケティング活動を展開させる。

(2) ビジネス教育力強化プログラム（教員対象）

新学習指導要領の実施に向けて、商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な教育活動を実践するとともに、共通教科の教員と連携した協働的かつ教科横断的なカリキュラム・マネジメントを実現する。

- ・ 専門的な知識・技術を有する支援員の協力を得て、教員の教科指導力の向上を目指す。ケースメソッド、ジグソー法等のMBAにおける手法を積極的に導入したアクティブ・ラーニングを実践することで、より深い学びの実現を目指す。
- ・ 各学科（国際ビジネス科、事務科、経理科、情報処理科）において育成を目指す能力を明確に設定し、ケース教材を作成する。アサインメント、授業展開、評価方法までの研究開発を行い、その成果指標の作成や検証を実施することでPDC Aサイクルを構築する。

(3) 愛知版ビジネス連携プログラム（学校対象）

県内の商業高校13校と連携し、東海地区及び全国規模で継続的に流通・販売可能な商品の開発を目的とした取組を実践する。商業高校とメーカーや流通業者が連携したマーケティングシステムを構築することで、本県における商業の学びをより深いものとする。

- ・ 県内の商業高校が販売実習や商品開発に取り組める地域企業を募集・登録した地域企業協働バンクを設定する。
- ・ 県内の商業高校と連携し、小学生・中学生を対象にした教育イベント（商業教育フェア、キッズビジネスタウン等）を企画運営する。
- ・ 地域産業界と協働し、実際のビジネスを体験することを目的とした教員向け企業研修を実施する。

〔推進連携校〕 13校

県立中川商業高等学校、県立春日井商業高等学校、県立一宮商業高等学校、
県立東海商業高等学校、県立半田商業高等学校、県立岡崎商業高等学校、
県立豊橋商業高等学校、県立緑丘高等学校、県立古知野高等学校、
県立津島北高等学校、県立知立高等学校、市立名古屋商業高等学校、
市立若宮商業高等学校

3 管理・運営方法

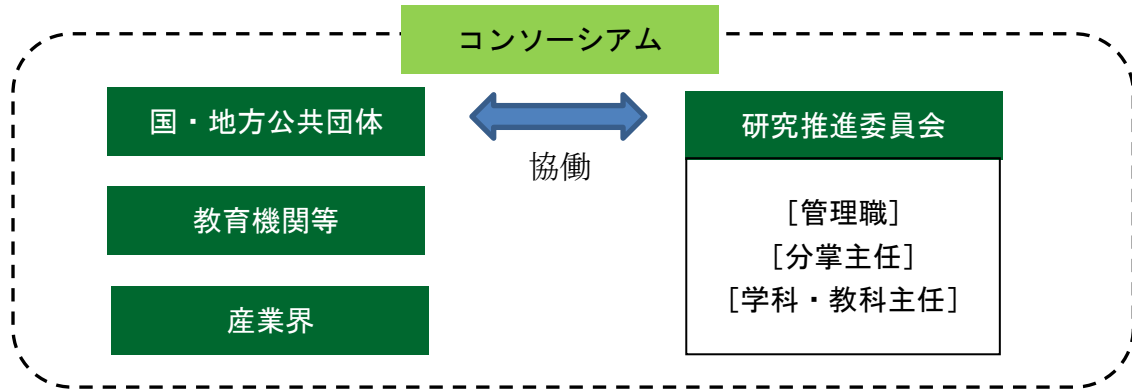
(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	役割
愛知県教育委員会	愛知版ビジネス連携プログラム
名古屋市東区役所	愛知版ビジネス連携プログラム
東海財務局	愛知版ビジネス連携プログラム
愛知労働局	愛知版ビジネス連携プログラム
名古屋商科大学	ビジネス教育力強化プログラム
名古屋学院大学	ビジネス教育力強化プログラム
大原簿記情報医療専門学校	ビジネス教育力強化プログラム
愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知版ビジネス連携プログラム
名古屋商工会議所	愛知版ビジネス連携プログラム
イオンモール株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
イオンコンパス株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
伊藤忠食品株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
大塚食品株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
株式会社中日ドラゴンズ	地域ビジネス理解促進プログラム
森永製菓株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
株式会社日本ドリコム	愛知版ビジネス連携プログラム
永井海苔株式会社	地域ビジネス理解促進プログラム
株式会社丸越	地域ビジネス理解促進プログラム

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアム（本校研究推進委員、地方公共団体、大学・専門学校、産業界）、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員との検討会議を開催する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制



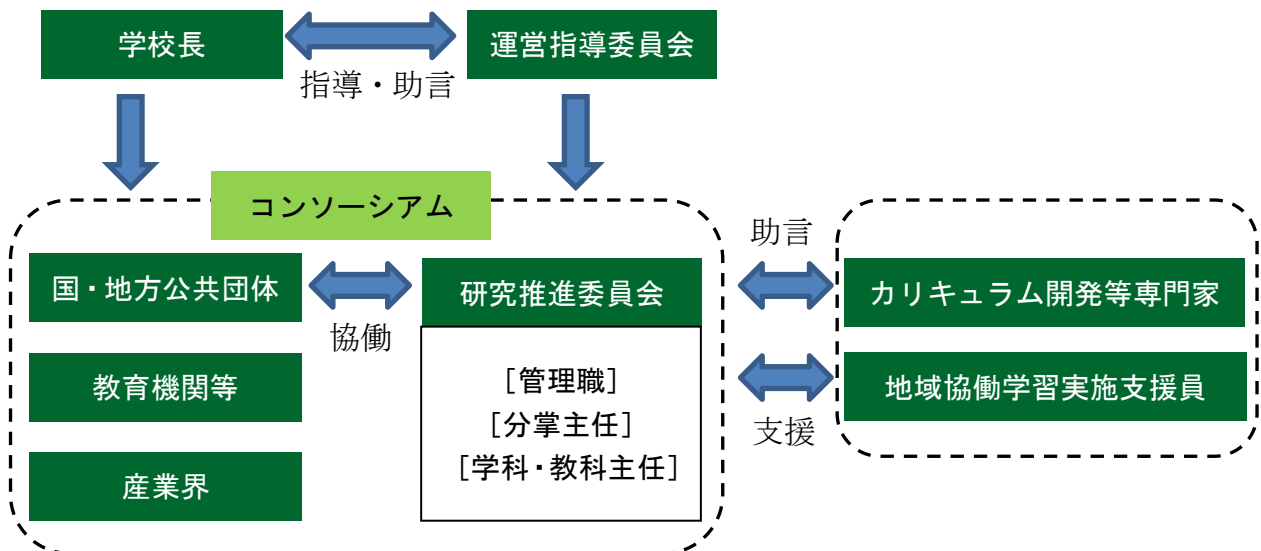
(4) カリキュラム開発等専門家の指定及び配置計画

機関名	機関の担当者	配置
名古屋商科大学	経営学部教授	非常勤（月1回）

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

機関名	機関の担当者	配置
イオンリテール株式会社	東海カンパニーエリア 政策推進チーム課長	非常勤（月1回）

(6) 運営指導委員会の体制



(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

ア 研究成果報告

- 2019年 愛知県高等学校商業教育研究発表大会での中間報告
全国サミット（仮称）
- 2020年 研究成果中間報告会での中間報告
愛知県高等学校商業教育研究発表大会での中間報告
東海四県全国商業高等学校長協会での中間報告
全国サミット（仮称）
- 2021年 研究成果報告会での成果報告
愛知県高等学校商業教育研究発表大会での成果報告
全国サミット（仮称）

イ 事業成果の検証

各年度末 研究推進委員会において、事業成果の検証と次年度の指導助言

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

- ・ 地域産業界から外部講師の派遣、地域企業講演会の実施
- ・ 商品開発や経理、広告、販売促進方法等、実際のビジネスに即した学習課題の提供
- ・ インターンシップの受け入れ
- ・ 地域産業界と協働した個人輸入システムと海外販売実習の実施
- ・ 東海地区及び全国への流通を目的とした商品の開発、販売実習等の支援
- ・ 地域企業協働バンクの設立
- ・ キッズビジネスタウンと商業教育フェアの開催
- ・ 教員向け企業研修の受け入れ

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

- ・ ホームページに活動内容を掲載
- ・ 校内で研究成果発表会を実施し、研究成果を発表
- ・ 愛知県高等学校商業教育研究大会において、研究成果を発表
- ・ 愛知県高等学校商業教育研究発表大会において、研究成果を発表
- ・ 東海地区商業教育研究協議会において、研究成果を発表
- ・ 研究成果を研究集録として、愛知県商業教育振興会加盟校と各都道府県の全商協会連絡理事校へ配付

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	あいちけんりつあいちしょうぎょうこうとうがっこう				②所在都道府県	愛知県
2019～2021	①学校名	愛知県立愛知商業高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
		1年	2年	3年	4年	計	・生徒数 計823名 (1年280名、2年279名、3年264名) (男子114名、女子709名) ・設置学科(4学科) 国際ビジネス科、事務科、経理科、 情報処理科 ※1年くくり募集
	全科	280				280	
	国際ビジネス科		80	74		154	
	事務科		40	37		77	
	経理科		79	76		155	
情報処理科		80	77		157		
⑥研究開発構想名	愛翔・あいちビジネスプロジェクト ～ビジネスの視点で地域課題の解決を目指すカリキュラム開発～						
⑦研究開発の概要	地域(愛知県全域)の課題をビジネスの視点で捉え、経営資源を最適に組み合わせ、他者と協働して地域ビジネスを展開できる人材を育成する。 この目的を達成するため、以下の3つのプログラムについて研究開発を行う。 ①地域ビジネス理解促進プログラム ②ビジネス教育力強化プログラム ③愛知版ビジネス連携プログラム						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 地域の課題をビジネスの視点で捉え、経営資源を最適に組み合わせ、他者と協働して地域ビジネスを展開できる人材の育成を目指す。 地域ビジネスに携わる上で必要な知識と技術を習得させ、自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、創造力、企画力を身に付けさせる。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ア 現状分析 企業が重視する資質・能力として「自発的に取り組む積極性」、「周囲の人との協調性」、「礼儀・言葉遣い等の社会常識」、「仕事を成し遂げようとする責任感」があげられており、これらを高校教育で身に付けさせる必要がある。 商業に関する学科の職業別就職状況は、販売従事者、サービス職業従事者の割合が低い。また、教育課程の科目設置状況(平成30年度入学生)は、マーケティング分野、ビジネス経済分野の科目設置の割合が低い。 以上のことから、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、創造力、企画力の育成と今までの商業の学びを継続し、様々な職種における人材育成と、マーケティング分野、ビジネス経済分野の充実を図る必要がある。					
		イ 仮説及び期待される効果 ①地域ビジネス理解促進プログラム ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、創造力、企画力を身に付けさせることができる。 ②ビジネス教育力強化プログラム 新学習指導要領の実施に向けて、商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な教育活動を実践するとともに、共通教科の教員と連携した協働的かつ教科横断的なカリキュラム・マネジメントを実現することで、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上が期待される。					

③愛知版ビジネス連携プログラム

県内の商業高校とメーカー、流通業者が連携したマーケティングシステムを構築することで、愛知県での活躍を目指す人材育成と教育活動の充実が図られ、全国への普及が期待される。

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

①地域ビジネス理解促進プログラム

- ・ 地域企業外部講師の講演・・・科目「ビジネス基礎」
- ・ 地域企業外部講師による講義・実習・・・学校設定科目「マーケティング実践」
商品開発の手法（国際ビジネス科・事務科）
企業会計の実際（経理科）
広告作成手法（情報処理科）
販売促進の手法（国際ビジネス科・事務科）
- ・ 地域企業へのインターンシップ・・・学校設定科目「マーケティング実践」
- ・ 国際理解ワークショップ、個人輸入システム・・・科目「総合実践」
- ・ 生徒が中学校等へ出向いて行う学校（商業科）説明会、プログラミング講座
・・・科目「課題研究」
- ・ 海外販売実習・・・学校外の学修

②ビジネス教育力強化プログラム

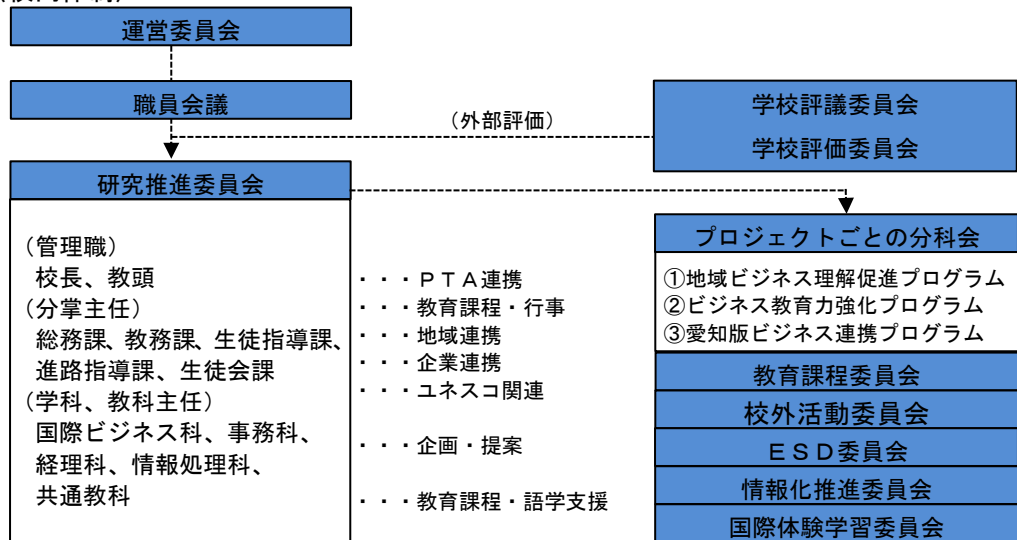
- ・ ケース教材等の開発、アクティブ・ラーニングの研究・実践
・・・学校設定科目「マーケティング実践」「プログラミング」

③愛知版ビジネス連携プログラム

- ・ キッズビジネスタウン、商業教育フェア・・・科目「課題研究」

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

〈校内体制〉



⑧
-2
具
体
的
内
容

(3) 必要となる教育課程の特例等
特になし

<p>⑨その他 特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 平成25年度にユネスコスクールへ加盟し、E S D（持続可能な開発のための教育）活動の推進を図り、E S D委員会を設置し、ユネスコスクール講演会やE S Dの視点を取り入れた学校祭などに全生徒、全職員で取り組んでいる。</p> <p>平成26年度よりビジネスプランの作成、地域企業との商品開発、海外インターシップと姉妹校交流、観光プランの企画、大手流通業者での販売実習、広告作成、高度資格取得や中国語講座を実施している。</p> <p>平成29年からは留学生との交流、地域企業との商品開発、観光プランの企画・商品化、アプリの開発、公認会計士の輩出の研究を進め、ビジネスリーダーの育成に取り組んでいる。</p> <p>・ 課外活動では、歴史遺産に満ちた学校周辺の地域の活性化に貢献しようと、平成23年度に「なごや 文化のみち ミツバチプロジェクト」を立ち上げ、校舎の屋上で都市型養蜂を始めた。また、採れたハチミツを商品化し、地域の新たなブランドにして、蜜蜂と共生するまちづくりを進めようと、「徳川はちみつ」と命名して商標登録をした。さらに、徳川はちみつと陸前高田市の米崎りんごとを使ったご当地アイス「希望のはちみつりんご」を手作りアイスクリーム工房と共同開発し、被災地支援にも協力してきた。</p>
----------------------	---